

2017年度「キッズデザイン賞」・「ウッドデザイン賞」受賞

株式会社日本ハウスホールディングス(本社:東京都千代田区)は、キッズデザイン協議会が主催する「第11回キッズデザイン賞」において、

子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門／あんしん・あんみん

子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門 /子どもに伝える「門松づくり」

子どもの五感にも優しい熱の貯金箱

食育の家

トリプルレイヤーウィンドウのある家

の2部門5点において受賞し、8年連続での受賞となりました。

また、ウッドデザイン賞運営事務局が主催する「第3回ウッドデザイン賞」において、

ソーシャルデザイン部門／プレミアム檜集成材

／みんなの家・つみきの家

の1部門2点において受賞し、第一回から3年連続での受賞となりました。

当社は創業以来、一貫して丈夫で長持ちする家づくりを志向し、「檜・品質」をテーマに日本の伝統工法である木造軸組工法の技術品質向上、国産材の普及に努めてまいりました。

親から子へ、子から孫へ、そしてそれ以上に日本ハウスホールディングスの家を継承していただきたいという強い思いから、子供達の想像力・空想力を高めると同時に家族の繋がりを促す住宅及び伝統工法の継承、より一層の国産材普及を追求し、今回の受賞に至りました。今後も弛まぬ技術向上とお客様が安心して暮らして行ける住宅づくりを行ってまいります。

キッズデザイン賞はすべての製品・空間・サービスなど幅広く対象とする顕彰制度です。「子どもが安全に暮らす」、「子どもが感性や創造性豊かに育つ」、「子どもを産み育てやすい社会をつくる」という3つのデザインミッションを実現するための優れた製品・空間・サービスを選び、広く社会へ伝えることを目的としています。受賞作品には「キッズデザインマーク」の使用が認められます。



主催:特定非営利活動法人キッズデザイン協議会、後援:経済産業省、消費者庁
(参照)キッズデザインAWARD : <http://www.kidsdesignaward.jp/2017/>

ウッドデザイン賞は、戦後造成した人工林の適正な森林整備を進める為、“木のある豊かな暮らし”が普及・発展し、日々の生活や社会が彩られ、木材利用が進むことを目的に木の良さや価値を再発見させる製品や取組について、特に優れたものを消費者目線で評価し、表彰する新しい顕彰制度です。



主催:ウッドデザイン賞運営事務局、特定非営利活動法人活木活木(いきいき)森ネットワーク 公益社団法人国土緑化推進機構、株式会社ユニバーサルデザイン総合研究所
JAPAN WOOD DESIGN AWARD 2017

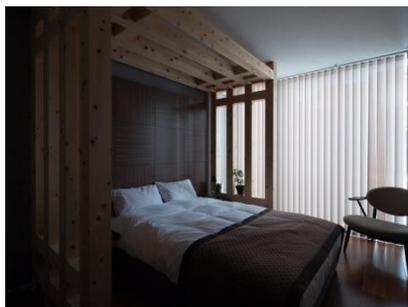
後援:林野庁

(参照)ウッドデザイン賞ホームページ: <https://www.wooddesign.jp/>

■あんしん・あんみん／～ 子どもたちの安全・安心に貢献するデザイン部門 ～



住宅で最も長い時間を過ごす寝室。睡眠空間の「安全・安心」だけでなく、「睡眠の質」にも注目した「あんしん・あんみん」は、総合的な睡眠環境の向上によって、子どもの健康維持増進に貢献します。構造的な耐力を持たせた格子壁を親子の睡眠空間を囲むように配置し、部屋全体の構造強度を向上させています。また、檜の無垢材を使用することで、安眠効果も向上させています。



■子どもに伝える「門松づくり」／～ 子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門 ～

当社では、以前より暮らしに密着した地域文化や祭事などを大切に、住まいづくりに取り組んでまいりました。

本提案では、毎年行われる「門松づくり」を通じて、ものづくりの楽しさに興味を抱くと共に、作り手である棟梁や町鳶が、その地域毎に異なる伝統や文化、作法を子どもたちに伝えていく提案です。



■子どもの五感にも優しい熱の貯金箱／～ 子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門 ～



当社は、檜にこだわった住まいづくりに注力してまいりました。「熱の貯金箱」は、檜の内装木質化により、年間を通じ温度変化の少ない室内環境を作り出す提案です。一般的には、熱容量の大きくない木材を表面加工の工夫(凹凸をつける事)で表面積を増やし、熱の受け渡しをスムーズにすることで、熱特性を向上させています。また、子どもたちに対して温覚 冷覚だけでなく聴覚 嗅覚 触覚 視覚にも優しい空間となり、感覚が敏感な子どもたちが過ごす部屋だからこそ普及させたい空間造りのご提案です。

■食育の家／～ 子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門 ～



食育の家は、暮らしの中で食の循環を実践出来る家です。衣・食・住とある様に「住まい」と「食」の関係は深いものがあります。本提案では、育成から収穫、調理から廃棄、再利用までの一連の行為が暮らしの中で実践出来るよう、空間配置と設備が設置されています。また、住宅展示場での野菜作り体験を実施しており、暮らす前から、命を育てる喜び、命を頂くことへの感謝を体感できます。

①栽培・育成(命を育てる責任感)



②収穫(命を育てる喜び)



③調理(お手伝い)



④食事(命への感謝)



⑤堆肥化(食の循環)



■トリプルレイヤーウィンドウのある家／～ 子どもたちの創造性と未来を拓くデザイン部門 ～

かつての日本の住宅は暮らしの中で学ぶ機会がたくさんありました。窓の開閉や打ち水、簾による日よけなど、五感で感じ試行錯誤しながら快適性を創り出していました。本提案では、外部環境を拒絶し空調する事で快適性を確保するだけではなく、「格子戸」と「窓」、「障子」の3つのレイヤーを操作することで、外部環境に合わせて自然エネルギーと設備機器を適切に使用し、快適な暮らしを送ることができます。環境を五感で感じ、創意工夫する事で子どもたちの感性を豊かにする住まいの提案です。



■日射・視線を遮蔽する格子戸



■アルミ樹脂複合Low-E複層ガラス



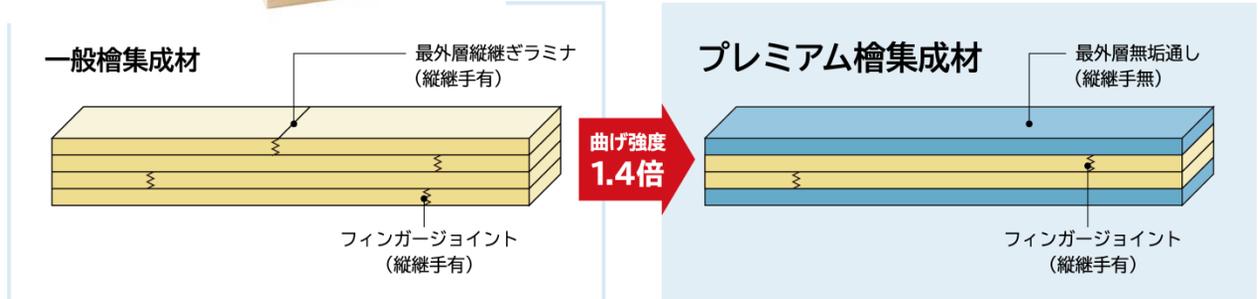
■断熱・気密を高める断熱障子



■プレミアム檜集成材／～ソーシャルデザイン部門 建材・部材分野～



本提案は、輸入依存の高い構造材において「国産檜」を活用することを目指し、利用価値が無く、山に放置されがちな高齢木の辺材や根曲り材を活用すること。集成材の最外層のラミナを継目無しの無垢通しとすることで強度を高め、今までタブー視されてきた、檜の「梁材」活用を実現しました。国産材の消費量を増やすきっかけとしたい提案です。



■みんなの家・つみきの家／～ソーシャルデザイン部門 コミュニケーション分野～

本提案は玩具では無く、「コミュニケーションツール」です。当社構造柱の檜を材料とし、住宅に使用される柱材(大きさや手触り、香りなど)を知ってもらおうと共に間取りをレイアウトできることにより、家族全員が家づくりに参加するきっかけを与えます。また、当社が日頃から訴求している「環境共生」を考える為のツールでもあります。この積木をきっかけに子供達にもものづくりの面白さ、木の良さ、人と住宅、住宅と木、木と森林の関係を知るきっかけの提案です。



■間取りタイプ

■モジュールタイプ



■本件に関するお問い合わせ

株式会社日本ハウスホールディングス
〒102-0072東京都千代田区飯田橋4-3-8
URL:<http://www.nihonhouse-hd.co.jp/>

担当;広報・広告室 小長谷、佐々木
TEL:03-5215-9881 FAX:03-5215-9909
E-mail:kkonagaya@nihonhouse-hd.co.jp